



NO. 872
 発行
 2016年
 3月10日
 国鉄労働組合
 新潟地方本部
 発行責任者
 上石 昌彦
 編集責任者
 教 宣 部

要員が足りない 職場の労働条件改善を

第122回拡大地方委員会
2月28日ひらく



第122回拡大地方委員会が2月28日(日)13時から開会されました。委員会では9名の方から発言があり、職場の労働条件に関する問題点が多く出されました。特に、要員が足りない・技術継承ができない・年休取得できない・など中心に出されました。エリア本部から、武笠執行委員が出席し、春闘情勢・取り組みについてあいさつがありました。佐藤副委員長のあいさつで開会し、議長に直江津の酒井委員が選

出、上石執行委員長のあいさつ・武笠執行委員のあいさつと続き福富書記長から方針提起、そして全体の討論がスタートしました。

議長あいさつ
酒井委員



ときメキ鉄道に向向している、原発を無くしていかなければならない。現在、住んでいるところは、柏崎刈羽原発から30キロ圏内だ。避難計画は出したが具体的にわからない。放射能汚染から逃げられない。廃止していかなければならない。出向は初めての経験だ。出向先はこんなに大変だったとは思わなかった。出向してみないとわからない。ときメキ鉄道の社長はワンマンだ。外面は良いが職場では人件費の削減など労働条件は厳しい状況だ。3月ダイヤ改で乗務員の行路が変更される。乗務員の教育が短い。6ヶ月現

全体の意見

支部の凍結・見直しについて地本の考え方や分会の体制について具体的に丁寧に説明して欲しい。職場の業務体制の見直し・要員が足りない状況だ。仕事が廻らない。助勤・助成は無い、しかしそれが無いと仕事ができない。技術



場教育で本線乗務となる。本線で何かあったら大変なことになる。会社は乗務員を養成しJRからの出向者を帰すのではない。北陸線・ヒスイラインにトンネルがあるので、2両編成での運行時は2人体制だがダイヤ改からワンマン化が導入される。リゾート列車で増収を図っているが会社は人件費を削減している。



継承もできていない。退職される社員から新人へ技術が引き継がれない。会社も容認している。現場は余裕が無い・サービスの低下だ。

ときメキ鉄道について12月22日回交をした。回答は予想どおりだったが回交しただけでも成果があった。JRへ申し入れも同様だ。直接、ときメキ鉄道へ行って交渉すること。当事者が回交に出席しないと要求が通らないのではない。ダイヤ上は良くなった。Pan集電舟スリ板の凍結があつて要員体制を変更したが、これは初めからわかつてやったことだ。回交の交渉内容から当事者を出席させること。上越線・信越線など無人駅が多いがワンマン化が提案、導入される。3月16日の回交では遅いのではない。

上石委員長 あいさつ



昨年の大会以降、運動を展開してきたが、拡大は達成していない。拡大に向けて奮闘しよう。国内情勢は、安倍内閣は憲法改正を訴えている。2000万人署名を成功させ戦争法を廃止しよう。原発問題は、前段の春闘学習会で学んだ。原発は廃止しなければならない。

労働法、年金、TPP、沖縄辺野古基地問題、消費税増税、など問題がある。そして、閣僚や自民党議員など問題発言が多くなっている。今の安倍内閣は余裕が無い状況だ。

職場は、委託化が進んでいる。職場では事故が多発している。JRの安全・安定輸送などJR本体が守っていかなければならない。

ストの準備指示が出された。地本も体制を整えていく。集会の開催や現場長への要求の申し入れなど取組みを、職場から地域へ運動を広げていこう。

支部の凍結について、継続していく。具体的な方向性を示していく。国労70周年にふさわしい取組みをしていこう。



地方線の問題・北陸線が第3セクターになった。本線で事故があつた場合の指揮命令系統について徹底しているのか検証を。



国労東日本本部 武笠執行委員 あいさつ

1946年2月27日に国労が片山津で結成された。今日は28日その翌日だ、決意を新たにならないう。日本国憲法は1946年1月3日に公布、翌年5月3日に施行された。組織的にも大衆的にも前進するよう訴える。国鉄新聞に70年のこれまでの闘いが特集されている。それを継承発展していくことが課題だ。

16春闘・マスコミ関係は、アベノミクス3年目で将来への不安を示している。安倍内閣支持は42%で不支持は57%。景気回復しないが65%となっている。富の再分配することが記載されている。

ベースアップが厳しい状況だが今年は年収をベースとして話されている。国労は15000円のベースアップを要求した。2月12日JR各社へ統一要求を出した。国労本部は闘争指示39号を発し第1次ゾーンを3月1日～9日・第2次ゾーンを3月10日～16日とし回答指定日を3月16日とした。

最終交渉では、西日本が3月3日・東海は3月10日・東日本は3月11日となっている。大衆運動は3月4日、国労青年部女性部家族会中央行動・3月10日～11日・国労中央行動は3月10日。

スト準備性の確立・闘争指示53号を発した。3月1日から第1次、第2次ゾーンが設定されている。集会、宣伝行動など職場での取組みを強化し組織拡大を結合して取り組んでいく。各エリア本部は交渉の強化をすともストライキ準備を進めていく。

ストライキ準備・会社、勤務など全体の把握をしてシュミレーションをすること。2年前「国労本部・労働者の権利」をもとにしてシュミレーションをすること。地方本部の決意でやること。いつでもストライキが打てるようにすること。3月7日の戦術委員長会議で判断される。早急に意思統一を図ること。エリア本部は闘争委員・戦術委員を任命、中央の委員会の推移で開催するか判断する。各地方で職場集会を取り組むこと。

労働条件に関わる協約について・乗務員、諸手当の交渉がはじまる。春闘の闘いの中で取り込まれる。8月11日が「山の日」になった。エリア本部は特休を増やすよう要求していく。

組織拡大・大宮で拡大。大会以降11名になった。エルダー組員は年間300名卒業する。現状維持にならない。早急な課題だ。出向先・エルダーやプロパーの組織化を進めていく。人のつながりや労働組合の存在意義を訴えていく。

東日本でアンケート調査を実施中、350名がアンケート調査に答えた。60～70名が他労組平成採がアンケートに答えた。国労組員一人ひとりが他労組へアンケートを訴えている。そこから国労加入へ結び付けていく。大宮車両所では日貨労役員が職場オルグ、国労と話をするとやっている。国労加入した人が、さらに国労加入を訴えている。拡大した人がさらに拡大している。国労70年の節目から、奮闘していく。

地方ローカル線・只見線、山田線が復旧していない。国民の足をどう守るのか。委託職場の実情を利用者に訴える。人が物を作り、車両が駅を動かす。人が憲法を維持し、移動権を守る闘い、運動を進めていくこと。

会社への交渉だけでなく大衆運動、世論の大きな力があること。世論を要求と結合して前進させていくこと。

16春闘はストを背景に取り組み姿勢で支部としても態勢をつくっていく。3・14に春闘行動を展開する。



ときてこの経営について・青年18キップが使えない。列車通過で使えるところと使えない線区とあるが、ときどき使用できない。会社へ使用できるよう要求して欲しい。貨物会社は、レール使用料など厳しい状況になっている。黒字になってもベースアップにつながらない。緊急時の体制にも交渉をお願いしたい。

職場に要員がいない。欠員状態で

課題を掲げて集会を18時30分から開催しその後、新潟駅前をデモ行進を実施する。支部凍結・概略的には、具体的に項目を書き出してから分代を開催する。先に凍結した支部があるので、そこを参考にしていきたい。丁寧にやっていく。出向の問題・技術継承ができていない。電車のPan集電舟など作られている。鉄道整備に委託されている。作成する人がいるのか、いないのか、技術継承がやられているのか疑問だ。北越急行の車両など車輪旋盤が依頼されている。できる人がいるのか。エルダー社員で要請がされている。どうするのか。プロパー社員への技術継承ができていないのではないかと。

要員の問題・職場で年休が取得できず流している。若い社員は研修などあつて勤務は厳しい状況だ。



仕事をしている。交番検査の要員が足りない。交番検査Bの要員がいない。欠員状態なので技術管理の担当者が補充されている。工具の置き忘れが多発している。共用工具は、すでに管理されているが個人工具についても調査し管理が強化される。本社・支社が現場へ調査点検に入る。

職場では、夏季にSLが運行するので年休が入らない。SLの運行は11月に終了するので12月から年休消化が集中する。特休も消化しなければならぬが年休も請求する。現場

職場の社員が年休が入らないと相談された。社員5人、2コ年休を流した。保存休制度について駅長に説明するよう求めた。職場は年休について不満がある。4月に東京から転勤してくるが欠員状態は続いている。



ワンマン化で車掌が減らされている。行路が複雑になる。列車通勤で行きは、幹線通勤が認められているが帰りは在来だ。帰日も幹線利用を認めて欲しい。

ワンマン運転が磐越西線や米坂線で運用。最初は新潟、馬下間だけだった。トンネルはワンマン運転させないと言っていた。しかし運行されている。



長は現状について監査で指摘されている。